



みどりのきずな

平成28年3月31日発行 第28号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276

緑区支え合いのまち推進計画

椎名地区の重点目標

廣田健次さんの「福祉教育」に参加して
一目の不自由な方の生活の様子を知り、
自分たちに出来ることを考えるー

委員長 岡本 博幸

平成28年1月19日(火)10時30分から11時30分まで、椎名小学校6年生30名への福祉教育授業が行われました。椎名地区部会スタッフやあんしんケアセンター職員も参加しました。児童は2時限目に区社協から借りた点字器を使って、廣田さんへのメッセージを打つ体験授業を展開し、3時限目の講話に入りました。

自己紹介

講師の成育歴と視力、生活の紹介

講師は明るさ、色、様子が分かりません。頭で想像して理解しています。野球やサッカーも観戦します。鉄道に乗るのも好きです。その空気にひたるだけでも大変楽しいのです。

視覚障害者の必需品

① 白杖 ②音の出る携帯電話 ③文字盤が開く時計 ④点字器 これらは自立して生活するため欠かせないものです。これらを使っている視覚障害者がいたら「お手伝いしましょうか」と声をかけてください。安心して生活できます。物だけがバリアフリーではなく、言葉が一番大切なバリアフリーなのです。

食事の配膳

目の前のテーブルを時計盤として考えて、6時の位置にスプーン、12時の位置に飲み物、9時に汁物、3時にご飯と教えてください。バリアフリーとは難しいことではなく、相手の立場になって考えることが大切なのです。



6年生が
廣田さんを
ガイドヘルプ

公共交通機関でのお願い

駅やバス停留所では行先や時刻が点字表示されています。もし困っている障害者がいたら声をかけてください。

点字ブロックの役割

点字ブロックには警告ブロックと誘導ブロックがあります。視覚障害者はそれを頼りに行動しています。歩道に自転車が置かれていると転ぶことがあります。また信号の感知は周りの雰囲気を感じて行動します。是非声掛けや誘導をしてください。心のバリアフリーを育ててください。

障害者と健常者の共存

マラソン、バレーボール、サッカーなど障害者スポーツを楽しむ人が多くなってきました。是非一緒になって体験し、参加してください。ともに運動し、同じ気持ちで娯楽やスポーツを楽しみましょう。

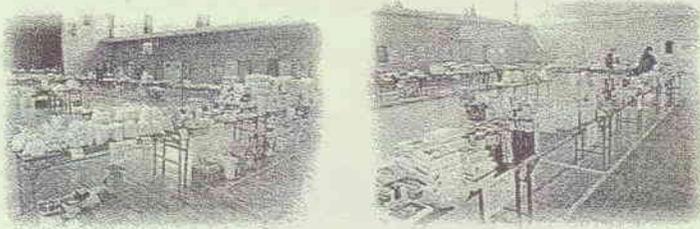
福祉教育の意義

児童は体験・講話・質問を通じて、大切なバリアフリーはその人の心の中にあるのだということ、健常者と障害者が共存できる環境であること、相手の立場にたって考えること、そして進んで行動することが大切であるということ学びました。一番良かったことは、障害者ご自身から直接講話を聞いたことだと思います。心に残る福祉教育でした。

椎名地区

これぞ地域の支え合い!

2月14日開催の「福祉・コミ懇まつり」には住民の善意の品物が多数集まり、バザーを開催することが出来ました。



収益金の一部は、80歳以上の一人住まいの方への見守り活動などに利用します。



地域で子どもを育てています

日頃より、地域の住民で子どもを育てる活動を行っていますが、2月26日に椎名小6年生を在学児童、PTA、地域住民全員で卒業と無事に育ったことを祝いました。

卒業後も地域の「きずな」を大切に思い、それぞれの道で活躍することを祈念して。



誉田地区

誉田小学校 感謝集会と人権講話

「JINKEN (人権)」

平成28年3月2日(水) 誉田小学校(山本雅司校長)において児童が日頃の感謝の気持ちを伝える感謝集会と、民生委員の鳥山さんから人権についての講話がありました。

感謝集会は、セーフティウォッチャーや読み聞かせの学校ボランティア16人に児童から感謝の言葉とお花の贈呈、最後には先生方のバンド演奏での合唱プレゼントがありました。

人権についての講話は、6年生を対象に紙芝居を使いながらいじめや差別について理解を深めるためのお話でした。春から中学生になる子ども達1人1人に人権尊重の大切さ「すべての人が人間らしく、自分らしく生きる」ためにみんなで考えていくことの重要性を伝えました。最後に在校生保護者と地域の方々と手作りしたかわいらしい犬のぬいぐるみ「JINKEN (人権)」がプレゼントされました。中学生になっても非行や犯罪に陥らないで欲しいというメッセージが込められています。



土気地区

地区部会のサロンに大学生が参加！？

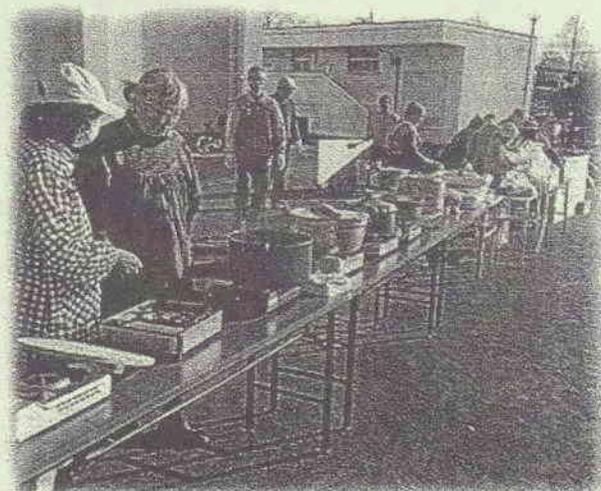
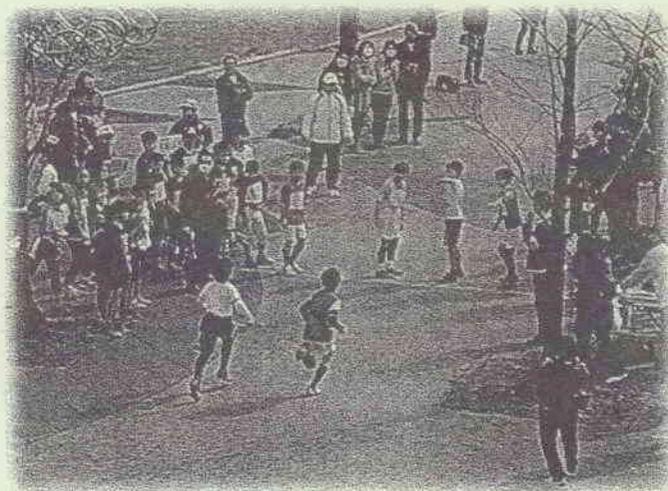
1月21日、あすみが丘プラザでは毎月第3第4木曜日午前中開催の子育てサロンが開催されました。この日の子育てサロンはいつもと違い、大学生が参加しました。大学生と言っても千葉市ことぶき大学校福祉健康学科の生徒が授業の一環として参加です。ことぶき大学校は市内在住50歳以上の方が通う大学校で生きがいくりと地域活性化を図るための学習を目的に市が設立しています。また2月4日荻生サロン、2月12日あすみが丘8丁目サロンにも参加しました。子育てサロンでは若いママさんと話をしたり子ども達と楽しそうに遊んでくれました。いきいきサロンではお話や合唱、特技の handmade を披露され大いに盛り上がりました。



おゆみ野地区

おゆみ野四季の道駅伝大会

2月21日(日)、第7回四季の道駅伝大会がに開催されました。前日の雨も上がって日が差し、絶好の駅伝日和。グラウンドの水たまりは、ボランティアの方々が雑巾で吸収させています。開会式の後、小中学生たちは、高校生や大学生のお兄さんに引率されて、各スタート地点へと誘導されていきます。きっと頑張っているのだろうと想像しながら、我々トン汁隊は煮込みに精を出して帰りを待ちます。先ず小学生の団が戻ってきてトン汁の前に列を作ります。そして全員が帰って来て表彰式。晴れがましい金、銀メダルの中学生は、あわやトン汁にありつけないところでした。怪我もなく無事に終了し、関係者はホッ！



委員の一言 コ-ナ-



社会福祉法人くちなし
セルプ・ガーデンハウス
小林 正継

東日本大震災から5年を迎えた。私を含めて「もう5年か…」と感じる人も多いかと思うが、私達はあの出来事を少しずつ忘れかけているということを感じた。

先日、被災地である福島県相馬市長の講演を聞いた。地震発生後すぐに対策本部を設置し、迅速な判断と行動が津波などから多くの市民の命を救ったことや、災害後の避難所生活等での市民の命を守るための取組みを聞き、改めて被災地の状況の凄まじさを感じさせられた。具体的な取組みはここに書き切れないが、市長の判断力・行動力と「市民」いや「人」を全力で守るその姿勢に涙してしまった。

私達は都度、復興がどれくらい進んでいるのか？と関心を示す。しかし復興とはインフラや産業などが回復するだけではないのだ。市長は災害で親を亡くした子供達全員が18歳になるまで金銭面や教育、そして心の傷を回復させる支援を続け、大学への学費負担まで行うと言う。その子供達が年齢だけでなく、震災の出来事を乗り越えて一人前の大人になっていくまで「復興」したとは言えないのである。

そしてこれまでの復興への取組みで一番力になっているのは、やはり「つながり」であるようだ。

私達は今『支え合いのまち』作りを取組んでいる。その中で一番大きなテーマそして課題はやはり「つながり」である。機器や通信の発達で確かに便利な社会になってはいるが、人と人とのつながりは希薄になってきている。人のつながりにこの便利さが加われば、どんなに安心して暮らせる社会になるだろう。

おしらせ

◆生活支援コーディネーターについて◆

地域での支え合い活動やサロン活動等の生活支援・介護予防の取り組みを支援するために平成27年10月から各区に1名配置されています。28年度はもう1名増員します。

緑区では、千葉市社会福祉協議会に配置されました。地域での支え合い活動やサロン活動の立ち上げを検討している方は生活支援コーディネーターまでお気軽にご相談ください。

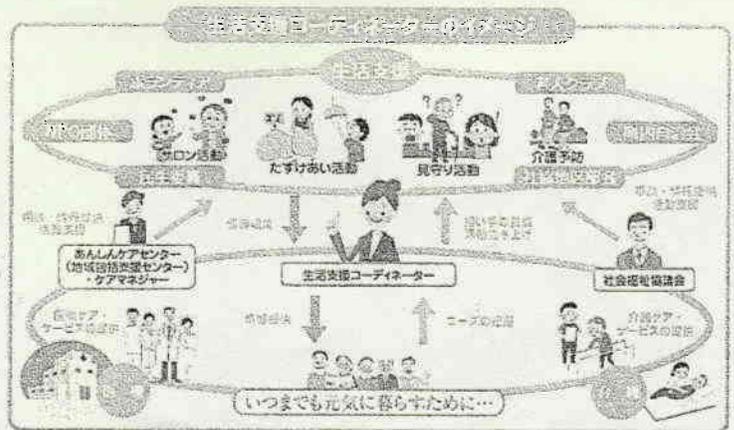
◆生活支援コーディネーターの役割◆

- ① 地域の活動状況を調べます
- ② 今後どのような活動が必要か考えます
- ③ 皆さんと一緒に支え合い活動を作ります
- ④ ボランティアを養成します
- ⑤ 各団体と連携する体制を作ります

緑区の生活支援コーディネーター

事業者：千葉市社会福祉協議会 緑区事務所

連絡先：043-292-8185



編集後記

東日本大震災から5年。時の経過と共に日常を取り戻すことができました方もいますが、まだ復興への長い道のりを必死に歩んでいる方々もいます。平成28年3月23日、誉田地区のボランティアがお手伝いし、東北から避難されている方々と千葉の郷土料理「太巻き寿司」を一緒に作るイベントで交流しました。まだまだ色々な支援ができると思います。みんなで考えていきましょう (Y.T)